

秋田の自立を支える社会基盤のストック効果



大館能代空港(北秋田市)



新城川(秋田市)



秋田港(秋田市)



秋田中央道路(秋田市)



芋川(由利本荘市)



日沿道象潟IC(にかほ市)



大館処理センター(大館市)



国道341号 橋梁補修(仙北市)



(都)横町線(仙北市)



市街地再開発事業(大仙市)



秋田県

秋田県建設部
平成27年11月



びあ
じき
んた
ユタカな国へ

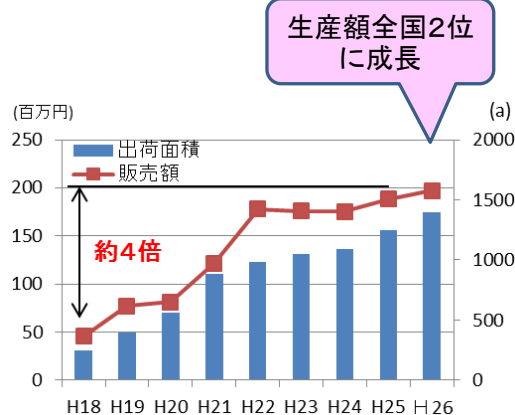
秋田県版ストック効果事例集 一覧

	事業名	箇所	テーマ
I これからの秋田の創生を支える社会資本			
①	道路事業 (高規格道路)	日本海沿岸東北自動車道 「象潟・金浦」間(にかほ市)ほか	秋田の創生につながる農林水産業の成長産業化、航空機産業への参入を後押し
②	港湾事業	秋田港、能代港ほか	産業振興のゲートウェイー物流効率化や拠点化により地方創生を後押しー
③	道路事業(補修)	国道341号(仙北市)	秋田の「地方創生」を支える橋梁の長寿命化の取組
④	下水道事業	秋田市(臨海処理区、八橋処理区) 県北地区(3市3町1組合)	人口減少社会を見据えた県民生活と産業を支える下水道ストックの集約化
⑤	街路事業	都計岩瀬北野線・横町線(仙北市)	「みちのくの小京都」角館の観光振興と地域の活性化に貢献
II 秋田の産業、生活を支えてきた社会資本			
①	土地区画整理事業 市街地再開発事業 街路事業	大曲駅前第二地区 大曲通町地区 (大仙市) 中通線、駅東線	大曲駅周辺の複合的事業による中心市街地活性化と地域再生の芽吹き
②	街路事業	秋田中央道路(秋田市)	秋田市中心部の東西を結ぶ街路整備による中心市街地活性化と交通環境の向上
③	河川事業	芋川(由利本荘市)	河川改修による浸水リスクの低減、治水安全度の向上がもたらす地域の活性化
④	河川事業	新城川(秋田市)	河川改修事業の進捗とその整備効果(浸水リスクの大幅な低減)
⑤	空港整備事業	大館能代空港(北秋田市)	県北地域における高度医療のサービスレベル向上に貢献

I-① 秋田の創生につながる農林水産業の成長産業化、航空機産業への参入を後押し

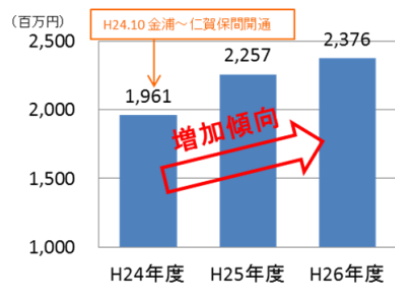
- 輸送効率化により、えだまめやりんどうなど園芸品目の市場拡大に貢献
- 高速道路利用により、子牛への負担の少ない輸送が可能になり、「秋田牛ブランド」の市場拡大に期待

■秋田鳥海りんどうの生産額が大幅に増加



- ・米依存脱却の取組として、えだまめ、りんどう、ねぎ等の生産拠点化を目的に、平成26年度から県内7箇所に園芸メガ団地を建設。
- ・約6割を関東・関西圏に出荷。

■県産子牛の販売額は年々増加



- ・平成24年、県内3カ所あった家畜市場を統合し、秋田県肉用牛振興の新拠点として、日沿道大内JCT入口に「あきた総合家畜市場」を整備。
- ・秋田米で育った県産子牛の評価が高まり、約4割を県外の牛肉産地が買い付け。
- ・牛の輸送には、ストレスによる品質低下を防ぐため、高速道路の利用が最適

- 高速道路を活かした輸送効率化で、県の主要産業である電子部品・デバイス・電子回路産業の再生と成長を支援。
- また、成長が見込まれる航空機産業への県内企業の参入を後押し。

■航空機関連事業の売上高は飛躍的に増加



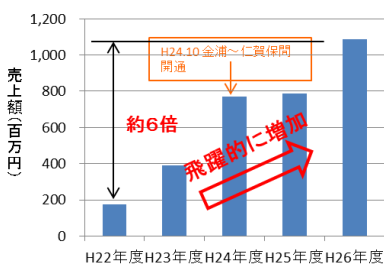
- ・本荘由利地域の企業が航空機の内装品等製造に進出。
- ・製造された内装品等は新潟県村上市にある組立工場に搬送。将来は世界の航空機メーカーとの直接取引を目指す。
- ・人材育成のため、由利工業高校に2017年度、県内初となる航空機関連科目を設置。

H27.10.16 秋田魁新報

延伸の作用

日本海東北自動車道（日東道）の一部となる金浦IC（約41.2）が、山形・秋田県境の酒田みなみIC（約30）が未開通7号から秋田自動車道を通る。金浦IC（約41.2）が、山形・秋田県境の酒田みなみIC（約30）が未開通7号から秋田自動車道を通る。金浦IC（約41.2）が、山形・秋田県境の酒田みなみIC（約30）が未開通7号から秋田自動車道を通る。

物流強化



「時間短縮はビジネスにとって大切な要素。移動時間の短縮で距離感が縮まり、営業の活動範囲や販路の拡大につながる。」

「秋田県と新潟県の間には、航空機関連産業への参入が見込まれる。県内企業の参入を後押しする。」

産業振興に欠かせず

3年前、「産和牛能力」の成長を促した。一般道の走行時の揺れや、停車・発進の繰り返しが、運搬中の子牛にストレスや、肉質の劣化を生じ、各地のブランド牛としても流通しやすくなる。秋田県は、県内初となる航空機関連科目を設置。県内初となる航空機関連科目を設置。

「新エネルギー産業（風力発電等）」を支える「みなと」、クルーズを通じた交流人口の増加、地域活性化、観光振興。

風力発電事業の大規模展開

☆風力発電資機材は海上輸送により「港湾」に水揚げされ、全県各地に運搬・配置。

○陸上風力発電:H27.10.23現在 168基設置 21.9万kW

○港内洋上風力発電:秋田港、能代港にて計画中



港内洋上風力発電事業の動き
H26.11月
秋田港、能代港の港湾計画を変更
「再生可能エネルギー源を利活用区域」を位置づけ
H27.2月
港内洋上風力発電事業者を選定
H30年度(予定)
港内洋上風力発電所建設着手
↓
平成33年度
風力発電所運転開始
秋田港(65,000kW:5MW×13基予定)
能代港(80,000kW:5MW×16基予定)



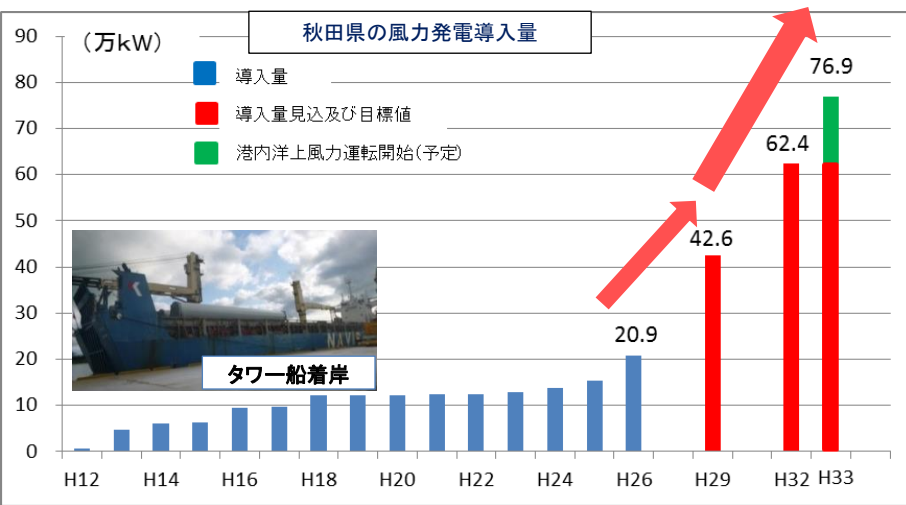
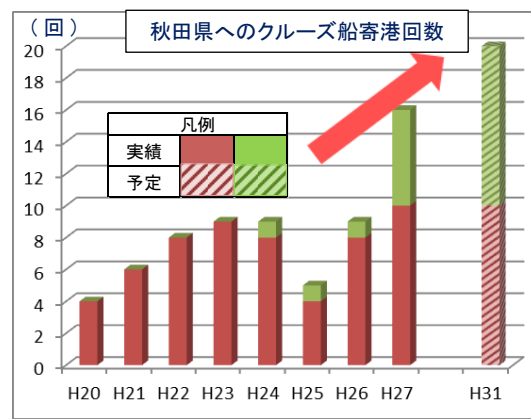
クルーズを通じた地域活性化、観光振興

☆フェリーふ頭に隣接した既存岸壁(-9~-10m)を利用し、外航クルーズ船を含めた大型旅客船を誘致。



秋田港に大型クルーズ船 外国人客もてなし強化

観光案内 教養大生ら通訳



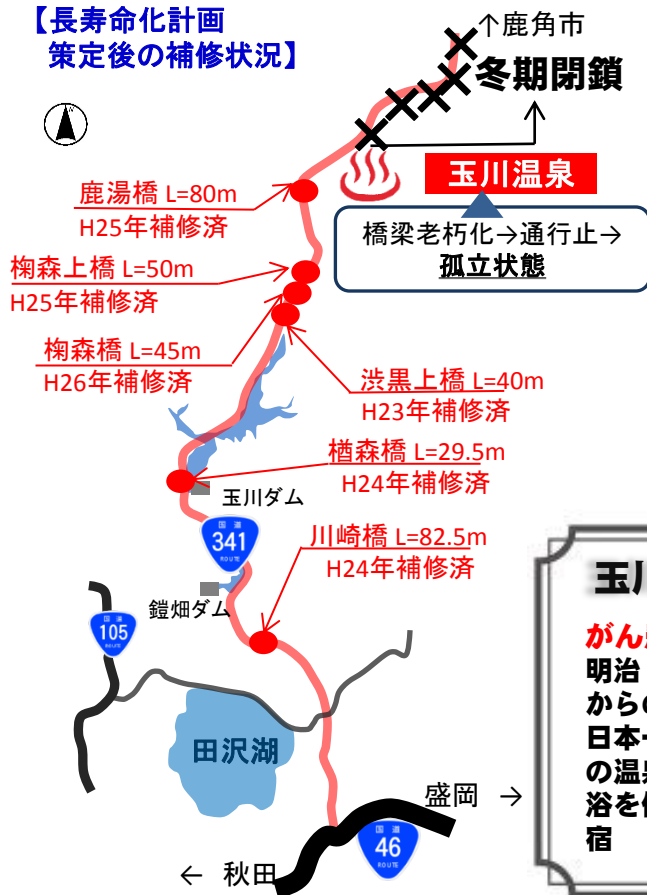
I-③ 秋田の「地方創生」を支える橋梁の長寿命化の取組

- ◆「国家戦略特区」の認定を受けた仙北市が、**玉川温泉**を中核とした「湯治型医療ツーリズム推進」の提案書を提出(H26.8.27)
- ◆玉川温泉への**唯一のアクセス道路**である国道341号に密集する**34橋のうち25橋(約74%)**が建設後30年を経過した老朽橋
- ◆橋梁老朽化による通行止めが発生すると、玉川温泉は**孤立**。

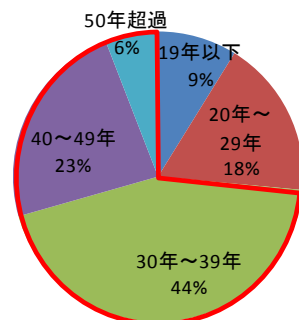


長寿命化計画に基づく予防保全型の補修により温泉への「命の道」を確保

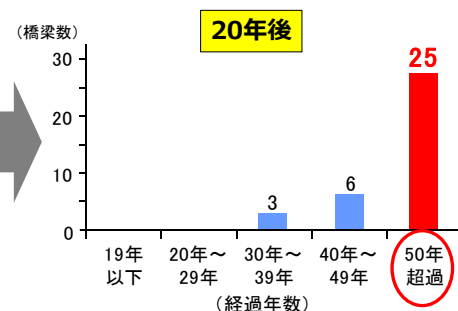
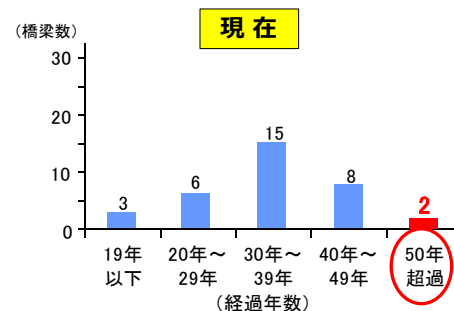
【長寿命化計画策定後の補修状況】



【国道341号の県管理橋梁の建設年数】



建設後30年を経過
25橋(約74%)



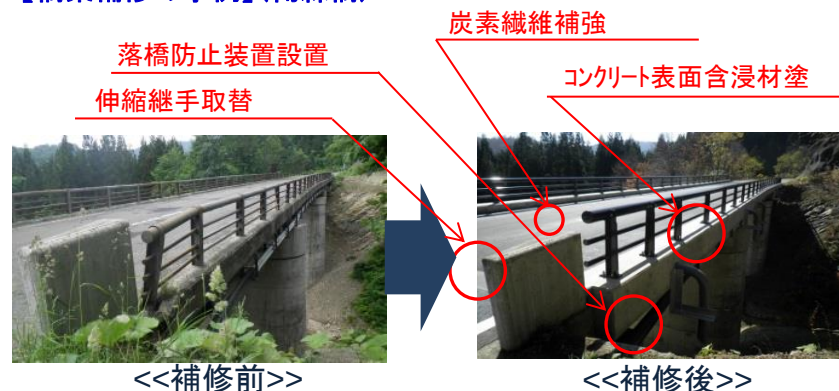
現在 建設後50年経過した橋梁は2橋のみ
しかし、20年後には、25橋(約74%)が50年を超過する

玉川温泉 年間利用約 34万人
(H26 秋田県観光統計)

がん患者が集う奇跡の湯治湯!
明治17年に開湯した本温泉は、1箇所からの湧出量が日本一。強酸性の温泉水、岩盤浴を備える湯治宿



【橋梁補修の事例】(榎森橋)

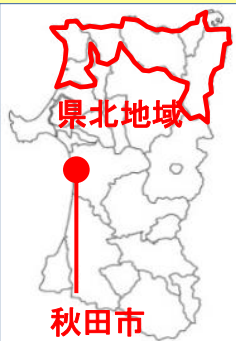


I ー④ 【人口減少社会を見据えた】県民生活と産業を支える下水道ストックの集約化

■人口減少による使用料収入の減少、施設稼働率の低下、施設の老朽化の進行等により、運営費の負担が増大し事業経営の悪化が懸念、住民サービス維持が困難。

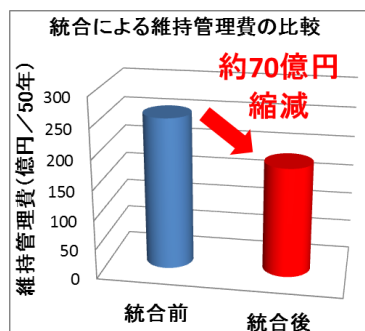
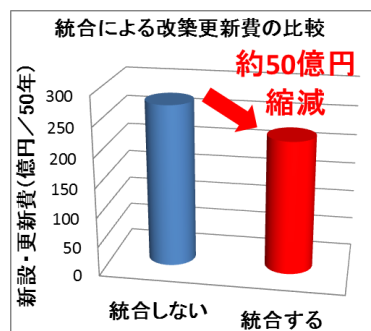
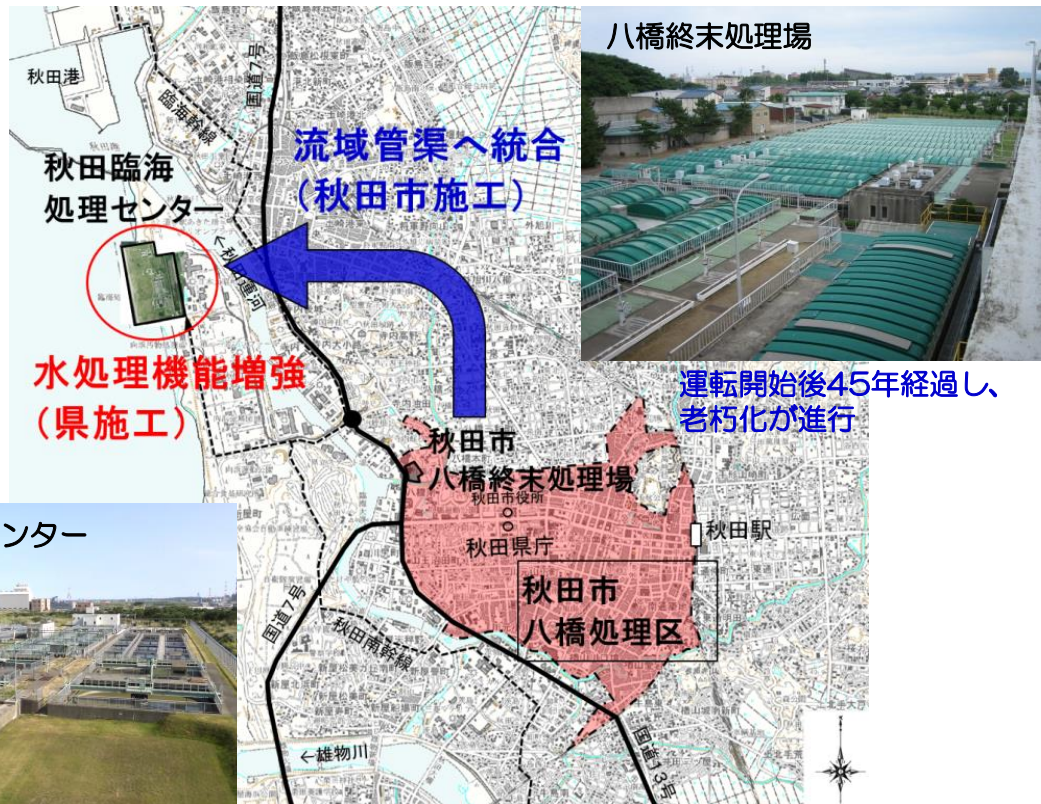


■ 県と市町村との協働による**汚水処理、汚泥処理の集約化**を図り、**持続的な汚水処理サービスレベルの提供を維持し、事業コストを大幅に削減。**



【市との協働による下水道処理機能の集約化】

◇県内最大規模の公共下水道（秋田市）を流域下水道（県）に統合（平成26年度着手、平成32年統合予定）



- ・老朽化著しい秋田市八橋終末処理場を改修せずに汚水を流域下水道に統合
- ・秋田臨海処理センターの**既存施設を有効活用**
▶水処理施設の改造（処理能力増強）

【市町村等との協働による汚泥処理機能の集約化】

◇下水道、し尿処理場から発生する汚泥を集約処理する施設の整備
▶**県北地区広域汚泥処理事業**
（平成27年度着手、平成32年供用予定）

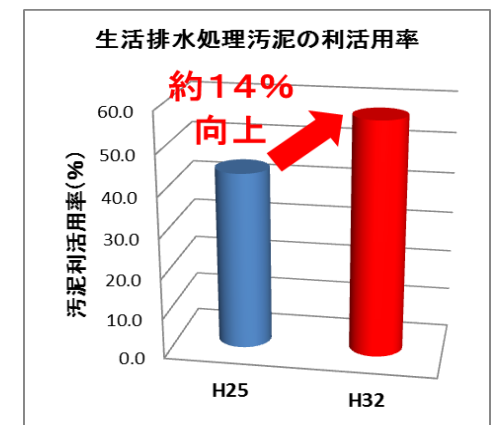


- ・県北3市3町の下水道終末処理場、し尿処理場から発生し、最終処分場で埋立処分している汚泥を**集約処理、資源化**
- ・資源化した製品は**地域に供給**



燃料化物
（イメージ）

★下水汚泥利活用率の向上
循環型社会への貢献



I-⑤ 「みちのくの小京都」角館の観光振興と地域の活性化に貢献

仙北市



観光商業地リノベーションに貢献!

横町線の整備をきっかけに観光商業地が再生。
建物の意匠の統一、無電柱化により角館らしい魅力ある街並みが形成され、沿線には新たな民間主導の拠点施設も誕生。

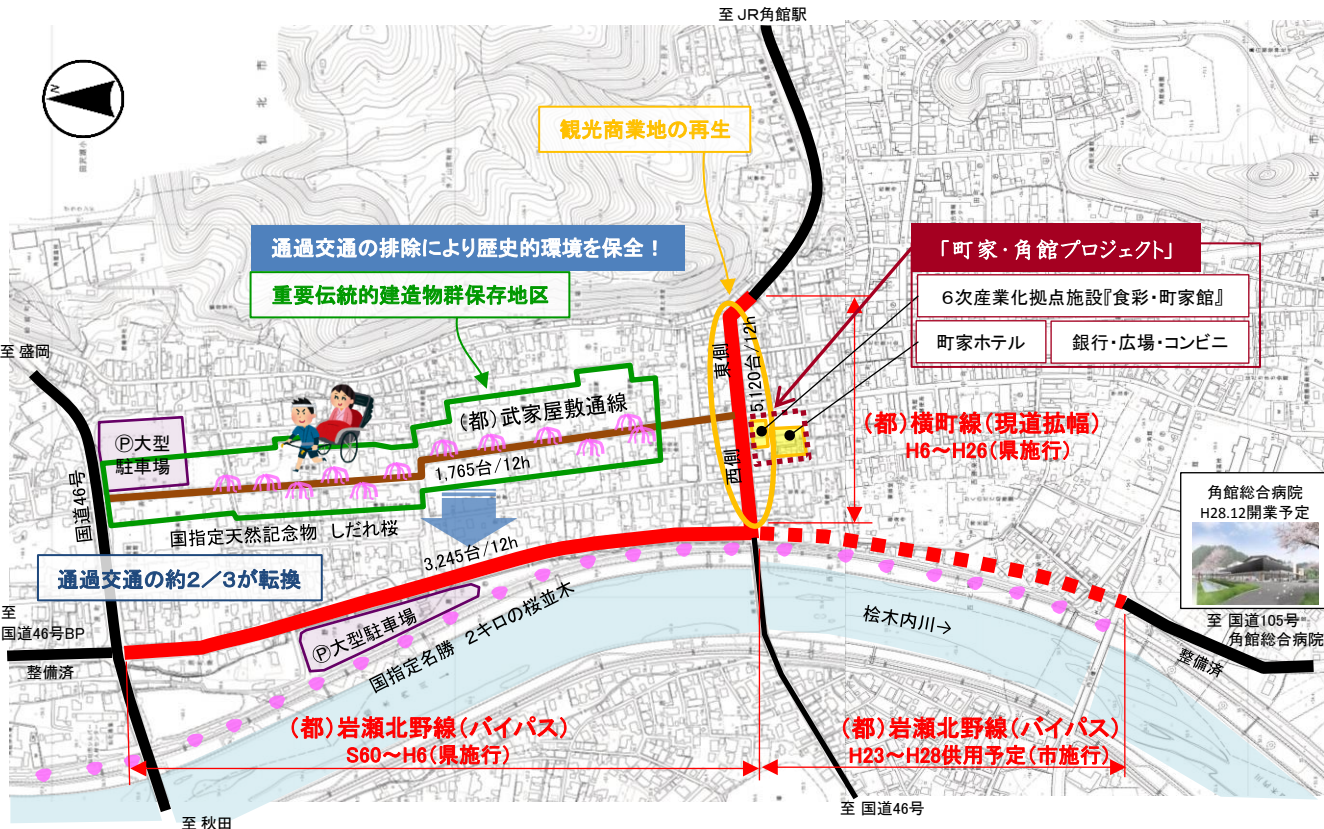


街路整備後、沿線に様々な観光商業施設が誕生し街の賑わいを創出している

「町家・角館プロジェクト」始動! 民間投資を誘発!



ホテル・食農観6次産業拠点施設・銀行・広場等の複合施設を民間主導で整備中



岩瀬北野線の整備により、武家屋敷通りを歩行者優先の道へ!

岩瀬北野線整備前 (S63)



岩瀬北野線開通前の武家屋敷通。車と観光客が混在し、観光地の環境悪化

岩瀬北野線整備後 (H25)



多くの観光客が訪れる桜祭り期間は、武家屋敷通を歩行者専用解放

(H25)



通過交通を排除し、安全な歩行空間が確保されたことにより、人力車運行も始まる

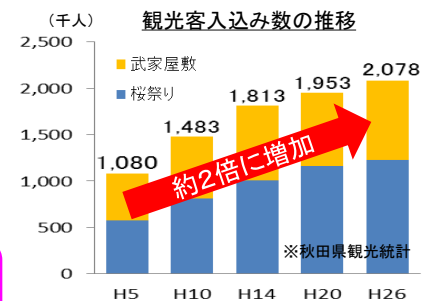
観光地の環境が改善され、観光客数が大幅に増加!

(平成9年3月)
秋田新幹線 開業



相乗効果で!

20年で・・・
◆観光客入込み数が2倍!
◆年間200万人を突破!



岩瀬北野線完成後 秋田新幹線開通後

横町線(西側) 完成後

横町線(東側) 完成

N
↑



駅東側の街路整備
により新たな
商業集積地が誕生！

新規立地店舗数	14件
現在開発中	3件



JR踏切の解消！
急車両の駅東西の通行環境改善！～



「黒瀬踏切」の解消



JRアンダーパス (中通線)

土地区画整理による住宅密集地の狭隘道路拡幅

～ 救急搬送時の傷病者負担の軽減！地域防災力向上！～

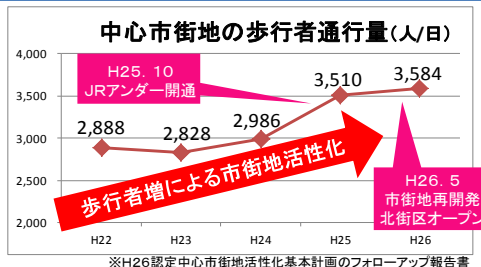


区画整理施行前（駅東地区）

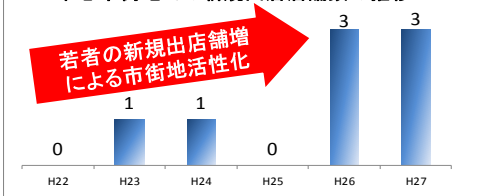


施行後（駅東地区）

商店街に若者が帰ってきた！
歩行者増！新規出店数が増加！～



若者の新規出店舗増
による市街地活性化

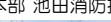


福田町（大曲駅東側地区）から
大曲厚生医療センターまでの
救急搬送時間が大幅短縮！



※JRアンダー及び中通線の全線開通(H27.6)前後の平均救急搬送時間(消防本部調べ)

(消防本部 池田消防指令)



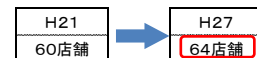
- 踏切での電車通過待ちロス時間がなくなったことから駅東側地区や国道13号への到達時間が短くなった。
- 従来の狹隘道路の解消により傷病者の搬送時の負担が大幅に軽減された。
- 道路が広くなり火災防衛上、有効な包囲態勢がとりやすくなった。

※平成22年の8月消防本部より「びびる」が「びびる」(秋田県消防本部)

この機会に各店舗のモチベーションを上げ、花火通り商店街だけではなく、周辺を広く巻き込んで地域のブラッシュアップを図り魅力ある街にしていきたい。

※平成27年9月ヒアリング調査(秋田県建設部調べ)

「花火通り商店街」では空き店舗増を新規出店によりカバーしながら商店街を維持している。



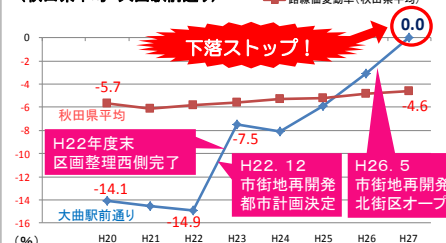
「花火通り商店街」店舗数の変化

画・再開発 県内唯一
18年ぶりに地価下落ストップ！

県内唯一！

- 秋田県の路線価は19年連続で下落中。
(下げ幅は全国最大)
- 大曲駅前通りの2015年路線価が秋田県内で唯一横ばいとなり、**18年ぶりに下落ストップ**となった。
- 仙台国税局コメント「再開発が進み、周辺の通行量も増え今後の期待感が反映されている」

路線価変動率の比較推移
(秋田県平均・大曲駅前通り)



15年 大曲駅前通り
下落ストップ
再開発事業が要因

[illegible]

※平成27年7月2日「秋田さきがけ」新報

商店街に若者が帰ってきた！
～ 歩行者増！新規出店数が増加！～

上海中物地、生信產經研局

中心市街地の歩行者通行量(人/日)

年度	歩行者通行量(人/日)	備考
H22	2,888	
H23	2,828	
H24	2,986	
H25	3,510	H25.10 JRアンダー开通
H26	3,584	H26.5 市街地再開 北街区オーブ

※H26年度中心市街地活性化基本計画のフォローアップ報告書

中心市街地での新規出店店舗数の推移

中心市街地での新規出店店舗数の推移

若者の新規出店舗増による市街地活性化

Year	Number of New Stores
H22	0
H23	1
H24	1
H25	0
H26	2
H27	2

※大仙市新規開店応援助成金活用店舗

秋田市中心部と秋田道インターチェンジとの時間距離の短縮により、交流の活発化・物流効率化など経済活動を支援
秋田駅東西間の交通渋滞の緩和により、中心市街地の活性化や緊急搬送時間の短縮など生活環境が向上



中心市街地定住人口(人)

供用後 1.5倍に増加!

(H19→H25)

中央道路供用

Year	Population (人)
H18	3,350
H19	3,380
H20	3,480
H21	3,520
H22	3,500
H23	3,520
H24	3,540
H25	3,580

Ⅱ-③ 河川改修事業による浸水リスクの低減、治水安全度の向上がもたら地域の活性化

浸水リスクの低減により新たに総合体育館が整備され、由利本荘市大内地域の緊急避難場所にも指定
市街地に近接した幹線道路沿いの宅地開発等による大内地域の活性化に寄与



由利本荘市

芋川 広域河川改修事業 H1~ L=15, 260m

河川災害復旧等関連緊急事業
H11年~H13年 L=7, 140m

災害復旧助成事業
H10年~H14年 L=2, 760m

交付金事業等
改修済

未改修

河道掘削、築堤、橋梁架替等

H23~、全19区画

宅地開発

JR羽後岩谷駅

由利本荘市役所
大内総合支所

国道105号

芋川

未改修

国道105号冠水状況

由利本荘市岩谷地区

総支所

岩谷小

平成10年8月豪雨 由利本荘市岩谷地区 被災状況

由利本荘市(大内地域)指定緊急避難場所の整備

【H17完成】



市立総合体育館



【H9年9月 洪水で臨時休校】

市立岩谷小学校

■平成10年8月6日~8日の豪雨による
被害状況

主な被害 床上浸水262戸、
床下浸水327戸
農地冠水237ha

災害復旧事業等により約10kmの改修完了
■現在は上流側5kmの改修や支川処理等
を実施中

「暴れ川」改修で効果

芋川下流域では被害なし

今回の大雨の影響で、水害が広がる中、芋川下流域は、水害がなかった。これは、河川改修事業の効果によるものと考えられる。芋川は、過去に何度も大規模な洪水が発生しており、住民の生命財産に大きな被害を与えてきた。しかし、今回の豪雨でも、芋川下流域では被害がなかった。これは、河川改修事業の効果によるものと考えられる。

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

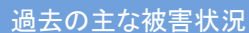
芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし

芋川下流域では被害なし



改修概要



毎年のように頻発する浸水被害

発生年月日	浸水面積 (ha)	浸水家屋数(戸)		
		床上浸水	床下浸水	合計
S60.5.27	2.3	0	2	2
S60.9.10	344.3	0	23	23
S62.8.16	474.0	52	390	442
H10.6.12	32.0	1	9	10
H13.7.30	0.0	0	2	2
H14.8.7	120.5	1	22	23
H18.7.3	420.0	1	25	26
H19.9.17	450.0	13	86	99
H21.7.18	65.0	1	15	16
H22.7.10	1.6	0	2	2
H23.6.24	3.1	0	1	1
H25.7.12	30.0	0	4	4
H25.9.16	7.0	1	5	6

浸水被害発生を防いだ河川改修

	洪水発生 年月日	水位（笠岡観測所）	実際の被害	
改修前	H25.7.12	2. 68m	床下浸水 4棟	浸水面積 30ha
改修後	H27.7.23	2. 07m 改修前では約2.76mまで 上昇したと見込まれます	被害無し	



秋田市の新城川 改修効果てきめん

23日の大雨で秋田市北部を流る新城川は水位が上昇し、ピークの午前10時ごろに氾濫危険水位まで24センチに迫るが6センチ達した。新城市では今年3月、洪水防止のため飯島字堀川一帯の新城笠岡(2・35ヘクタール)の川を改修して、氾濫を免れる。

測所では23日、降り始めの午前9時34分、10時に99センチの雨量を観測。同課は改修前と降れば水位はさらに約10センチ上昇していたと試算している。

観測所近くで長男と2人、で住む佐佐美キミ子さん(79)は、以前だったら家の

大雨で水位が上昇した新
城川。23日午前10時、秋
田市・新城岩城



前冠水して避難していた
と思、改修工事をしたが
ら、雨が降っても気になら
なかつた」と話した。

(藤原創)

H27.7.24 秋田魁新報

Ⅱ-⑤ 県北地域における高度医療のサービスレベル向上に貢献

- 東京医科歯科大学専門医の東京との日帰り往復により、高度医療の受診機会が創出
- 東京女子医科大学医師が週二回の外来診療を行うなど、医療サービスの質が向上



I 高度医療の受診機会の創出

- 平成25年度から、秋田大学と東京医科歯科大学との連携により、専門医の派遣を受け、北秋田市民病院での胃・大腸の腹腔鏡手術が可能に。
(これまでは、80km離れた秋田大学でしか受けることができなかった。)
- さらに、秋田大学の派遣医に対し、地域がん医療における人材の育成を目的とした指導も実施され、スキルアップが期待。《往復とも大館能代空港の利用により日帰り》



「地域がん診療病院」の指定を目指す

Ⅱ 医療サービスの質の向上

- 平成25年度から、東京女子医大（一泊二日）から派遣された医師二名が、週二回循環器内科の外来診療を実施。
《復路で大館能代空港を利用》



入院患者への対応の充実、災害派遣医療チーム（DMAT）編成に繋がる。

大館能代空港 H10.7.18 開港

■国内線運航本数
東京便 朝夕各1便



空港～病院
距離: 4.5km
時間: 車で5分程度

北秋田市民病院
H22.4.1 開院



〈地元の声〉

北秋田市
津谷 永光
市長



病院を空港に近接した位置に建設したことにより、首都圏からの利便性が向上し、この地域でも高度な医療が受診できるようになりました。
また、手薄であった診療科において、東京から医師を派遣して頂くことができ、安心しております。

北秋田市民病院における腹腔鏡手術回数

